

2015年度 日本認知神経リハビリテーション ベーシックコース (東京2)

1日目 2015年7月19日(日)		
08:45-09:00	1日目受付	
09:00-09:45	講義1 認知神経リハの道具(教材)の意味 行為の学習を促す教育技法	鶴埜
10:00-10:45	実技1	講師全員、実技指導者
10:45-11:30	実技2	講師全員、実技指導者
11:40-12:25	実技3	講師全員、実技指導者
12:25-13:10	実技4	講師全員、実技指導者
13:10-14:00	昼休憩	
14:00-15:30	プレゼンテーション1 認知神経リハの基本概念 行為の教育のための神経科学と神経現象学 ファシリテーター：園田 コメンテーター：小川、河野、鶴埜、安田	
15:40-18:30	プレゼンテーション2 認知神経リハの実践の基礎 プロトコールに基づき ファシリテーター：鶴埜 コメンテーター：小川、河野、園田、安田 ・どのように動くかと規定された運動 行為の三人称観察 安田 ・プロフィール 行為の一人称観察 小川 ・改善の予測要素と改善予測 教育の思考 河野 ・訓練の組織化 行為の運動学習 園田	
19:30-21:30	レセプション	
2日目 2015年7月20日(祝・月)		
08:30-09:00	2日目受付	
09:00-09:45	実技5	講師全員、実技指導者
09:45-10:30	実技6	講師全員、実技指導者
10:40-11:25	実技7	講師全員、実技指導者
11:25-12:10	実技8	講師全員、実技指導者
12:15-13:00	実技9	講師全員、実技指導者
13:00-13:45	昼休憩	
13:45-14:30	講義2 半側空間無視症例への認知神経リハ	河野
14:40-15:25	講義3 失行症症例への認知神経リハ	小川
15:25-16:10	講義4 失語症症例への認知神経リハ	稲川
16:20-17:00	講義5 認知神経リハ(RN)から行為間比較(CTA)へ	園田
17:00-17:30	講義6 機能回復でなく、新たな行為の学習という考え方 まとめとして	鶴埜

実技（以下、順不同で基本的な実際の訓練、観察を経験、受講生約4名に対し1名の指導者が担当）

1. 下肢、体幹へのアプローチを中心に（PT初学者向け）

- 上肢：リーチ動作の行為
 - ①到達のコンポーネント1：タブレットのマス位置
 - ②到達のコンポーネント2：円軌道
 - ③アプローチ、把持、操作のコンポーネント：ポンテ、ラルケット、表面素材
- 下肢：歩行の行為
 - ④支持、到達のコンポーネント1：臥位で行われる下肢の訓練
 - ⑤支持、到達のコンポーネント2：坐位での前後方向の傾斜板
 - ⑥支持、到達のコンポーネント3：坐位での足底下の不安定板
 - ⑦推進、緩衝のコンポーネント：立位での踵下のスポンジ
- 体幹：上下肢の行為の基礎として
 - ⑧垂直性のコンポーネント：坐位での側方からのスポンジ
 - ⑨支持性のコンポーネント：坐位での殿部下の不安定板

2. 上肢、体幹、そして失行症者へのアプローチを中心に（OT初学者向け）

- 上肢：リーチ動作の行為
 - ①到達のコンポーネント1：タブレットのマス位置
 - ②到達のコンポーネント2：円軌道
 - ③アプローチのコンポーネント：ポンテとラルケット
 - ④把持、操作のコンポーネント：表面素材とレーゴリ
- 下肢：歩行の行為
 - ⑤支持、到達のコンポーネント：坐位での前後方向の傾斜板
- 体幹：上下肢の行為の基礎として
 - ⑥垂直性のコンポーネント1：坐位での側方からのスポンジ
 - ⑦垂直性のコンポーネント2：五目板
- 失行症者への訓練とプロトコールに基づく観察
 - ⑧視覚と視覚、視覚と体性感覚、視覚と言語の情報変換
 - ⑨De Renziの模倣検査、FLORIDAテスト

3. 失語症、失行症、運動性構音障害者へのアプローチを中心に（ST初学者、もしくはPT、OTリピーター向け）

- 失語症者への観察と訓練の絵カード
 - ①表情、行為に関わる名詞1（主語）
 - ②行為に関わる名詞2（目的語）
 - ③行為の動詞
 - ④空間概念と身体部位、歩行
- 失行症者への訓練とプロトコールに基づく観察
 - ⑤視覚と視覚、視覚と体性感覚、視覚と言語の情報変換
 - ⑥De Renziの模倣検査、FLORIDAテスト
- 口腔内の識別課題
 - ⑦舌へのアプローチ、口唇へのアプローチ
- 上肢：リーチ動作の行為
 - ⑧到達のコンポーネント：タブレットのマス位置
- 下肢：歩行の行為
 - ⑨支持、到達のコンポーネント：坐位での前後方向の傾斜板